

ベルリン国立博物館総裁代理

Dr. ギゼラ・ホラン



ホラン博士、新しい社会状況と統一ベルリンのという展望のもと、国立博物館の仕事で何が変わりましたか？

この話から始めましょう。私は、ちょうど先週の金曜日、日本から帰ってきたばかりです。日本で、新旧のパートナーと興味深い交渉を行なっていました。日本での今後の国立博物館の展示会を取り決め、また逆に日

本の展示をドイツにもってきたいという話もしました。一九九一年のプロジェクトがひとつ、もうほとんど確定しています。私は、今のご質問を日本でもジャーナリストや博物館関係者たちから何度も受けてきました。特に、十月に宮崎で開かれる「古代人の顔」という展示会と関連しての話でしたけれど。これに古代コレクション、前アジア博物館、エジプト博物館、パピルス・コレクション、キリスト教前期・ビザンチン・コレクションから六十一点出品します。この展示会は、宮崎でハイライトになるでしょう。なぜならば、今年は宮崎で空港が新しく整備されましたし、私たちの展示会が文化イベントになるのですからね。

国立博物館と西ベルリンのプロイセン文化財団との間の話に戻りましょう。両機関の間の不干渉は、変革とともに終止符を打ち、全く正常な協力関係を速やかに築くのに成功したと言うことができます。両者共、ほとんどの細部にいたるまで等しく構造化されているんです。分離は、確かに陳列場所に応じて在庫品によったものだったのだし、ベルリンの国立博物館の百六十年の歴史を考えてみれば、百二十年は歴史を共有しているんです。そういうわけで、いずれにしても私たちは、構造と芸術上の目的設定について多くの点で一致しています。

変革前には、要するにコンタクトがなかったという

ことでしょうか？

コンタクトは、徹底的に禁じられていました。プロイセン文化財団の問題は、両国の文化事業計画から常にきっぱりと除外されていました。プロイセン文化財団はちらで法的に認められていなかったからです。私たちは依然として、博物館の展示品が博物館の島、その歴史的発祥の地の所有に再び戻るという立場をとっています。私たちは今、いかに国立博物館の再編成をすすめるべきか、合意のもとで戦略を練っているところです。私は、ベルリン国立博物館の再編成と意識して言っているんです。統一後のことを考えると、ただそうとしか言えません。統一後、一九六七年の連邦法によると、財団はドイツ再統一の時点までとはつきり期限付きで設立されたのです。すなわち、ドイツ統一とともに財団はどっちみち存在しなくなる。そうしたら、ベルリン国立博物館が十四の大きな博物館とコレクションとともに全く新しい基盤のもと新たに構成されることになるでしょう。もう一九四五年以前と同じような様相を示すことはありません。一方では、戦争中に多くの建物や収集品が破壊されてしまったのだし、他方では、両者で新しく随分取り揃えてきましたからね。この目的のために両者が、所定の時に政治的、文化政策的に十分練られ、それに従ってプロセスを推進できる構想を雇い主に提出できるよう、あらゆ

る側面からすでに様々な協議がおこなわれています。

とすると西側にはそこにある展示品のために博物館が別に新たに建てられたということですか？

はい。発祥の地は、こちらの博物館の島でした。私たちはそれ以外にモンビジョーパークのお城や皇太子の居城をもっていましたし、かつての市城のなかに美術工芸博物館の一部が入っていました。でも、これはもう存在しません。ただ民族博物館だけは、一度も博物館の島にありませんでした。

考えていきますと、将来的にはただひとつのエジプト博物館をもつようになるということでしょうか？

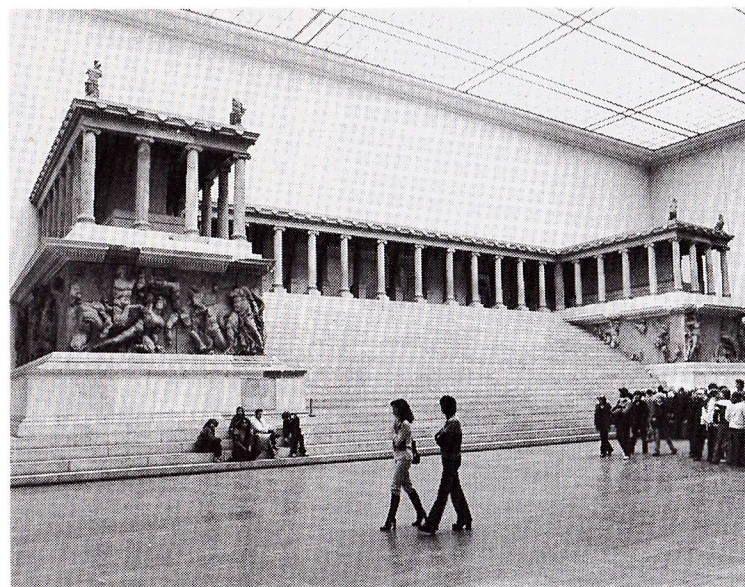
ええ、もちろんです。

新博物館の廃虚はどうなるのでしょうか？

去年の世界平和の日、新博物館再建のために礎石を置きました。すでに復興中で、将来は、エジプト博物館の場所となるでしょう。昔、そうだったように。

今後、訪問者が期待するのは何ですか？

私たちのもとには、世界中の訪問者が感動する唯一無比の展示品の数々がありますからね。この展示品がつかいにまたひとつになり、見ることができるようになるのです。このように大規模なものは、世界でもさらにあるも



ペルガモン博物館

のではないでしょう。すでに今、分断されているにもかかわらず、考古学コレクション、エジプト博物館、前アジア博物館は、世界の三大博物館に属しています。この展示品が今や一つになったらどんなに素晴らしいか、想像してみてください！

— 融資の方はどうなっていますか？

それについては、他の人に聞かなければなりません。私たちは要求していますが、新しい政府がどのような決定を下すか、ちょっとまだわかりません。でも世界の博物館が自身で負担することは無理ですから、私は樂觀していますけれどね。

— 入場料は、どうなりますか？

DDRにおける入場料の問題は、一般的に長いことないがしろにされてきたテーマでした。入場料というのが、価値のカテゴリーやそのような尺度と関係していることはもちろん承知しています。ベルリン七十五周年祭のとき、貴重な特別展示に対しては、通常の一、〇五マルクではなく、三マルクとつてよいということになりました。入場料は、今後通貨統合の過程で様々な他の問題とともに新たに規定されなければなりません。政府補助金が廃



ボデー博物館

シュリーマンの生誕百年を記念して、私たちはアテネ国立博物館と一緒に展示会を準備しています。これは、アテネとベルリンで開かれた後、日本で特別展を企画しています。その次のプロジェクトは、『十八世紀の芸術と考古学』というもので、この学術プロジェクトのスポンサーとして、すでに日本テレビと読売新聞社が決まっています。

— ベルリン国立博物館の再編成には、どの位の期間を必要としますか？

止されれば、多くのことが新しく考慮されます。ともかく民衆のあらゆる層のためにつくしてきた私たちの集中的な文化政策的な活動を、決して途中でやめてしまうつもりはありません。これは、私たちが統一ドイツに持ち込むべき重要なことです。子どもたちのため私たちの博物館教育をどこか脇に押しやることはしませんし、そのために戦うつもりです。

きちんとした学術的準備作業の上、展示品を公開の効用性、修復状況、美的条件に応じて整理するとなると、八年から十年かかるのではないかと私は個人的に見積っています。政治的統一はもっと早く実現するでしょう。これは、もう予測できることです。でも偉大な実質上のプロセスは、責任感を持って取り組む場合、私たち博物館関係者はそうですが、かなり長い時間を費やすことになるでしょうね。あと確かなことは、その間に一つあるいはいくつかの博物館が閉館してしまうことです。これは、修復の必然性からいつでも計画的に生じることでしょうけれどね。

— 一九九一年日本で予定されているプロジェクトの背後には何があるのですか？

(九〇年四月十八日)